

令和4年度 学校自己評価

中津市立城井小学校（学年末）

1 学校の教育目標

ふるさとを愛し、自分の成長を追い求める城井っ子の育成 【かしこく ゆたかに たくましく】

2 育成を目指す資質・能力

創造・表現力（自分の考えを磨き、伝える力）

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

重点目標	達成指標		重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
生きて働く知識・技能の育成	○「家庭学習と読書への取組が毎日できている」児童の割合 80%以上 ○ 国・算の単元テストにおける「知識・技能」の観点で正答率 85%以上（短期サイクル） 及び 市学力調査（基礎）で全国目標正答率を平均で上	学校	読書量と質の向上 基礎基本の定着	・毎朝10分読書の推進と、選書を意識した全校読書企画を実施する。 ・チャレンジタイムに基礎の定着を図り、ロングチャレンジタイムに個々の実態に合う課題を用意する。 ・計算力アップ週間を行う	A	計算力アップ週間を計画し全校一斉に取り組み、今後の取り組みを考える手立てとなった。今後は、「話形」を意識した言語技の活用を全校統一して行う。
		家庭	家庭学習・読書の習慣化	・家庭学習時間（学年×10）と読書時間（10分）について家庭での振り返りを行う。 ・ルールの徹底（時間・学習用具を守る）	B	各種アンケートへの回答や生活実態調査集計結果を受けて家庭で話し合いを行う機会が増えている。テレビ・ゲーム・動画の視聴時間が長い児童や、睡眠時間・排便などが特に気になる児童については家庭と学校で連携した取組を教科する必要が
		地域	読書量と質の向上	・読み聞かせ活動への協力（週1回） ・読書の質を高めるアドバイスを	A	週に一度の読み聞かせが定着し、子どもたちは静かに聞いている。地域の方とのふれあいもできている。「質を高めるアドバイス」については方法を来年度検討する。
多様な考えを受け入れ「自分の考えを磨き、伝えられる力」の育成	○ 国・算の単元テストにおける「思考力・判断力・表現力」の観点で正答率 70%以上（短期サイクル） 及び 市学力調査（活用）で全国正答率を上回る児童 75%以上 ○「自他の意見を交流することができている（学習面・生活面）」児童の割合 80%以上	学校	生徒指導の3機能を意識した、考えを磨く指導の充実 ICTを活用した「みんな活躍型授業」で、考えを伝えられる場の充実	・授業では「キーワード」をもとに「自分の考えを持たせ、書かせる」時間を確保する。 ・授業の終わりに全ての児童へ「まとめ」「振り返り」を書かせて発表する場及び考え思いを伝え合う場を設定する。 ・週に5回以上、ICT機器を使った学習の設定を行う。	A	[自分の考え][まとめ][振り返り]を発表させる授業スタイルが定着した。また、単元テストや市学力調査で、成果が出ている。ICT機器の使用については使用回数を増やすだけでなく応用的な使い方を進めていく。
		家庭	「きいっこ」と「4つのあいさつ」の推進	・家庭で「4つのあいさつ」について話題にし、毎日できるように推進する。	B	児童会活動、保護者のあいさつ運動を含め、あいさつやきまりについて少し意識して生活できていると感じるが、継続していく必要がある。
		地域	児童の姿に基づく「熟議」の推進	・学校公開（参観授業・公開授業）へ参加し、児童の様子を見た上で「考えを磨き、伝えられる力」をめざした協議を学校運営協議会等で行う。（学期に1回以上）	B	「昔の遊び」で地域住民と、「米作り・餅つき」でもみじ園と、スクールガードへのお礼の会で見守りの方々と交流ができるようになり、幅広い意見を伺う環境が整いつつある。
「学んだことを生かす力」の涵養	○地域の特色や課題に対して自分の考えを持ち、表現できる児童の割合 80%以上 ○「ふるさと城井が好き」と答える児童85%	学校	ふるさと城井について探究的な学びの推進	・学期に1回以上生活科・総合的な学習の時間で「ふるさと」を題材とし、「課題設定・情報収集・整理・分析」を行う。 ・「まとめ・表現」では地域貢献の視点から取組を創造させる。	B	「未来に残す平田公園」の方々から「大豆」を通して多くの事を学んでいる。ホタル学習では、地域の高校生に学びながら川への放流までできた。
		家庭	子どもとふるさとについて考える機会の充実	・学校行事や学年行事及び生活科や総合的な学習へ参加する。 ・地域の歴史・環境について、1ヶ月に1回、「学級通信・学校だより」をもとに家庭内で意見を交換する。	B	地域の方が子どもたちのために協力してくださっている姿を知ることができた。また、ふるさとの大切さを学んでいる子どもたちの姿も知ることができた。
		地域	ふるさと城井について探究的な学びへの参画	・ゲストティーチャーとして学校へ関わり、「地域の良さ・課題・願い」について児童に伝える。	A	児童が植えた大豆から「豆ふの作り方」について課題を与えることで探求していくことができた。ホタル幼虫の放流会では、足場の作成や説明等で、ふるさとの川を守る活動をともに行えた。
働き方改革の推進	○設定時間内に終わる会議 90%以上 ○在校等時間を前年同月比において減少させる	学校	会議の時間内終了に向けた計画的効率的運営 超勤時間の把握と改善	・月に1週、会議や研修をもたない水曜日をつくる。 ・会議の提案は計画的に作成し、事前相談等を行い、方向性を定めて提案する。	A	第3水曜日に会議を持たず、それぞれの仕事が進める環境を作れている。担当の意思がはっきりした提案ができている。
		家庭	PTA活動の見直しによる回数削減と時間短縮	・PTA行事の精選を図り、担当や教頭が早めの取りかかりや効率的な持ち方を進める。 ・各会議を1時間以内に終わらせる。	A	PTA会員の中でも時間の削減への意識が高い意見もよく聞かれ、妥当である。
		地域	早朝、放課後の交通指導の対応	・学校と情報共有をしながら、老人クラブ・地域ボランティア・警察等が連携して見守り活動を行う。	B	地域と学校で情報共有しながら、子どもの安全確保が進められている。「安全安心お礼の会」への参加をして児童自身の安全への意識を啓発する。

生きて働く知識・技能の育成

思考力・判断力・表現力の育成

学びに向かう力、人間性の涵養

働き方改革の推進